

京都市障害者就労支援推進会議通信

第6号 平成26年6月

事務局：京都市保健福祉局 障害保健福祉推進室

平成26年度予算の主な事業

1 障害者職場定着支援等推進センター事業（新規）

障害のある方の一般就労において、長期的な定着支援を図るため、京都市域における職場定着支援の中核として、本市独自に「京都市障害者職場定着支援等推進センター」を平成26年4月に設置しました。

当センターでは、就業生活職場定着支援員を3名配置し、京都障害者就業・生活支援センターと一体的な連携を図りながら、就業先の職場訪問などによる職場定着支援の強化と長期的な定着状況の把握、一般就労者に対する仲間づくり支援など、一般就労された障害のある方の長期就労をサポートします。

16,200千円

2 障害者就労支援プロモート事業（継続）

平成25年度から本市独自事業として再編した「障害者就労支援プロモート事業」においては、障害保健福祉推進室に「障害者就労支援プロモーター」を引き続き2名配置し、京都市障害者就労支援推進会議及び部会を開催するほか、「障害者の働く力」の向上や「障害福祉事業所の障害者を支える力」の向上、「企業の雇用する力」の向上を支援します。

障害のある当事者や就労支援担当者を対象とした「スキルアップ研修」をはじめとして、他事業（障害者職場実習・チャレンジ雇用推進事業など）と連携を図りながら企業向けの取組（企業訪問による職場実習機会の開拓、企業人事担当者向けの企業見学会など）も実施します。



スキルアップ研修（支援者向け）の様子
～ポジションを考えてみる（寸劇、ミニ講義）～
〔平成25年9月9日〕

11,494千円

3 障害者職場実習・チャレンジ雇用推進事業（継続）

障害のある方を対象に京都市役所で約2週間の職場実習の場を提供しており、事務職場をはじめ区役所・福祉事務所、公営保育所などで実施しています。また、更なるステップアップとして、職場実習で得た経験をもとに、臨時的任用職員として働くチャレンジ雇用も実施しています。

また、チャレンジ雇用を、職場実習終了後に順次実施できる枠組みを継続し、実習生の一般就労に向けた支援計画との調和、職場の労働力需要への柔軟な対応を図ります。

職場実習20職場20名、チャレンジ雇用6名を予定しています。

5,000千円

4 就労移行支援事業等ネットワーク形成促進事業（継続）

障害のある方の一般就労における安定的かつ継続的な職場定着のため、就労系事業所に職場定着支援環境づくり及び個別支援を行う職業生活支援員を配置し、日常生活の面から職場定着支援の充実を図っています。今年度は、職業生活支援員の人材育成を図ることにより、その支援を受けた障害のある方の企業就労を促進していきます。

また、こうした事業所ごとの個別支援に加え、本事業を受託した事業所間のネットワーク化を図ることにより、個々の事業所の取組を有機的に連携させるシステムづくりを行い、事業所が実施する職場定着支援の事業効果を更に高めていきます。実施箇所は、10箇所。

緊急雇用対策事業33,480千円

5 ヘルスキーパー育成・普及支援事業（継続）

あん摩マッサージ指圧師等の国家資格を有する視覚障害のある方を企業等に無償で派遣し、企業等におけるヘルスキーパー制度の認知・普及・雇用を図ることを目的としています。

これまでのヘルスキーパー普及支援事業を踏まえ、企業等への積極的な働きかけ等による継続的な就労確保の仕組みづくりを行います。また、企業就労中のヘルスキーパーの組織化にも取り組みます。そうした活動を通じて視覚障害のある方に対する就労支援と企業の雇用に対する支援ノウハウを更に深めることを目指します。

緊急雇用対策事業15,603千円

6 障害者雇用促進アドバイザー派遣等支援事業（継続）

障害者雇用に意欲があり、具体的に雇用を進めるに当たり、職域開発や特例子会社設立等のノウハウを必要としている企業等に対して、障害者雇用促進アドバイザーの派遣や、障害のある方を雇用する際に必要な備品購入に要する費用の補助を行うことにより、障害のある方の職域を拡大し、自立と社会参加の推進を図ります。

また、障害者雇用の必要性あるいは意欲はあるものの、具体的な雇用計画の検討に至らない企業等を「障害者雇用ステップアップ研究会」でサポートし、障害者理解の促進や実際の雇用拡大につなげます。

7,500千円

7 はあと・フレンズ・プロジェクト推進事業（継続）

障害福祉事業所で作られたものに限定せず、障害のある人が広く関わってできた製品を「ほっとはあと」の仲間＝「はあと・フレンズ」としてブランド化し、企業連携、事業所連携、市民協働の視点を取り入れた製品開発、生産、販売の新しいモデル事業づくりを行うことにより、モノづくりに励む障害のある方の多様な生き方を支援するものです。取組を通じて、障害のある方の自立と社会参加を促進するとともに、企業や市民に対する障害者福祉への理解促進や将来の雇用機会の創出を図ります。

13,672千円

はあと・フレンズ・ストア



新しいモデル事業（例）



<アームカバー>

【企業と連携した商品開発・販売】

株式会社フェリシモとマロニエファッションデザイン専門学校の学生がデザインした「アームカバー」「ブックカバー」「ヘアゴム」等を、市内障害福祉事業所で生産し、フェリシモウェブサイト及びはあと・フレンズ・ストアで販売しています。



<トラフィカ京カード>
※26年7月上旬発売予定

平成25年度 京都市の障害者就労支援の主な取組状況

1 障害者就労支援プロモート事業

(1) 京都市障害者就労支援推進会議の開催

① 推進会議実施状況

第9回	25.6.21	障害者優先調達推進法について
第10回	26.1.30	長期就労に向けた支援のあり方について

② 部会

障害者就労支援の連携のあり方検討部会	長期就労に向けた定着支援の方法等	1回開催
精神障害者就労支援システム検討部会	精神障害者の就労支援の課題整理	1回開催
「福祉から雇用へ」事業所連絡部会	職場定着支援について検討	2回開催
発達障害者支援連携協議会・就労支援連絡部会	各機関の取組状況について	2回開催
巣立ちのネットワーク	総合支援学校 PTA 職場開拓の取組等	2回開催
	第20回雇用フォーラムの開催	25.11.13
デュアルシステム推進ネットワーク会議	企業実習や職業教育のあり方検討	2回開催
障害者職域開発推進部会	アトバイザー派遣等支援事業の審査等	2回開催
はあと・フレンズ・プロジェクト推進部会	事業計画確認等	1回開催

(2) 障害者就労支援スキルアップ研修の実施

障害のある当事者や就労支援担当者等が一般就労への移行のために必要な知識・スキルを習得する研修会を開催しました。(全24回、延べ406名参加)

(3) 企業見学会の実施

企業の人事担当者等向け企業見学会(障害者雇用の好事例等)を開催しました。(全5回、延べ56名参加)

2 障害者職場実習・チャレンジ雇用推進事業

(1) 職場実習の実施状況

身体障害(2名)、知的障害(13名)、精神障害(3名)のある方計18名が18の職場で、それぞれ約2週間の職場実習を行いました。

市民サービスの窓口となる区役所・福祉事務所のほか、保育所等を実施職場とし、より幅広い就労体験をしていただける環境づくりを実施しました。

(2) チャレンジ雇用の実施状況

上記の職場実習を受けた方の中から2名の方を、京都市の臨時的任用職員(アルバイト)として「チャレンジ雇用」しました。(約2箇月間)

一斉に実施する従来の方式から、職場実習の流れで雇用する新しい取組も行い、実習生の一般就労に向けた支援計画と職場の労働力需要のバランスを取って柔軟に実施しました。

3 障害者雇用促進アドバイザー派遣等支援事業

「障害者職域開発推進部会」における有識者等からの意見を踏まえ、以下の事業者を補助事業者に指定し、障害者雇用拡大の取組を支援しました。

事業者名	事業実績概要
株式会社ハートコープきょうと	京都生活協同組合の特例子会社として申請、雇い入れた作業指導員の定着支援、リサイクル関連事業への拡大に向けた調整 (本事業による雇用拡大10名〔26.3末時点〕)
むしやしない	洋菓子製造販売に係る周辺作業を中心とした職域開発 (本事業による雇用拡大1名〔26.3末時点〕)

4 はあと・フレンズ・プロジェクト推進事業

(1) アンテナショップ「はあと・フレンズ・ストア」の設置・運営

〔営業時間〕 10:30～19:00 〔定休日〕 毎週月曜日、年末年始
 〔所在地〕 京都市下京区函谷鉾町80番地 きらっ都プラザ京都産業会館地階
 〔TEL〕 075-221-8111 〔FAX〕 075-221-8118
 〔HP〕 <http://www.hatarakimahyo.jp/hfp/>
 〔Email〕 heart-friends@cap.ocn.ne.jp
 〔twitter〕 https://twitter.com/heart_friends
 〔売上等〕 取扱: 51事業所 (H26.3) 740アイテム 売上: 約1,350万円

〔アクセス〕



(2) 各種イベントの実施、連携

- ダブデレ・デザイン×はあと・フレンズ 共催セミナー〔共催〕…「職人を育てる福祉施設のものづくり」
- 中京区民ふれあいまつり 2013×はあと・フレンズ 共催イベント〔主催〕…中京区産ニホンミツバチのはちみつを使った“やつはしスティック”の販売
- 第5回ほっとはあと EXPO in Kyoto〔連携〕

(3) 事業モデルの構築

新しい事業モデル (例)

【産学公プロジェクトによる商品開発】

京都産学公連携機構と京都産業会館の助成金を活用し、産学公プロジェクトチームを結成。はあと・フレンズオリジナル商品を開発しました。〔やつはしスティック, クラフトカレンダー〕



(4) はあと・フレンズ・ギフトカード

【京都市による障害者就労施設等からの調達推進】

はあと・フレンズ・ストアが発行する「はあと・フレンズ・ギフトカード」を京都市が購入し、イベント記念品や謝礼として市民に広く配布する取組。京都市によるほっとはあと製品の調達促進とともに、市民に対し広くほっとはあと製品や障害福祉事業所の取組を普及啓発することを目的としています。



<ギフトカード>



<ご利用の手引>



京都市障害者就労支援推進会議通信 第6号 平成26年6月発行

事務局：京都市保健福祉局 障害保健福祉推進室

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

TEL 075-222-4161 FAX 075-251-2940 URL <http://www.hatarakimahyo.jp/>

京都市印刷物第264279号

この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！

